

総論

満点	100点	目標得点	90点	試験時間	60分	偏差値	72
大問数	5	小問数	57				
【解答形式】		選択式	35/57問	記述式	20/57問 (内、年代の配列1問)	論述式	2/57問
【問題難易度】		C	8/57問	B	12/57問	A	37/57問
※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：選択問題・記述問題・論述問題を組み合わせる。史料に関連する論述問題を解かせるなど例年の出題傾向を踏襲している。内容的には基本問題と受験生が解けない難問が組み合わせられている。
- 2：時代的には前近代に重点が置かれ、大正時代以降の出題は見られない。また、政治・文化史の比率が高い。
- 3：未見史料を読解して解くという応用力があるか、自分で文章を書く力があるかどうか、という単なる用語の暗記ではない総合力が試されている。

こんな力が求められる！

- ①基本知識の内容理解と暗記。
- ②未見史料を読み解く力。
- ③基本事項を簡潔にまとめる文章力。

参考図書

山川出版社『日本史史料集』

大問別分析

【I】

予想配点	15 / 100点	時間配分の目安	5 / 60分
出題分野・テーマ	戦国大名		
出題形式	選択（語群にない場合0を選択）		
小問別解答と難易度	※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (A)-8(義教)A (B)-4(憲実)A (C)-6(持氏)A (D)-1(成氏)A (E)-5(政知)A (F)-3(宗瑞)A (G)-2(氏康)B (H)-5(憲政)C (I)-8(守護代)A (J)-7(守護)A (K)-9(陸奥)B (L)-2(近江)B (M)-0(周防)B (N)-5(肥後)B (O)-4(土佐)B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	【前期】5月期2回 中世7 下剋上の社会と戦国大名 【後期】11月期4回 政治史4 室町幕府・織豊政権・徳川幕府—封建制の成熟—		

●解答のポイント&学習対策等

(イ)永享の乱と、鎌倉公方の分裂による関東の戦国時代への突入を扱った基本問題、(ロ)関東・中部の戦国時代の基本的動向と出身階層、(ハ)主要な分国法を扱った問題の中間3題からなる。このうち、(H)「5上杉憲政」だけが難問で、あとは解答できる問題である。注意したい形式は、(ハ)の問題で、分国法から、その分国法を制定した戦国大名の名称ではなく、その支配地域を国名で問うている。分国法—制定

Benesse® お茶の水ゼミナール

者の組み合わせだけでなく、その支配地域を押えているかという応用問題で、丹念な学習が必要である。

【Ⅱ】

予想配点 20 / 100 点	時間配分の目安 15 / 60 分
出題分野・テーマ 幕末期の貿易	
出題形式 選択	
小問別解答と難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (A)-2 (日米修好通商条約) B (B)-2 (20%) A (C)-1 (生糸) A (D)-4 (茶) A (E)-1 (織物類) A (F)-3 (5%) A (G)-2 (松方デフレ) C (H)-1 (イギリス) A (I)-4 (居留地) A (J)-3 (10里) C (K)-3 (徳川家茂) A (L)-3 (公使) C (M)-4 (善福寺) C (N)-5 (蘭露英仏) A (O)-5 (1911年) A (P)-2 (桂太郎) A (Q)-4 (1859年) A (R)-3 (箱館・長崎) A (S)-5 (ロシア) C (T)-1 (1854-55年) B	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 【前期】7月期2回 近・現代 1 開国とその影響 【後期】冬期対外交渉史Ⅰ3回 鎖国体制の崩壊と明治初期外交	

●解答のポイント&学習対策等

幕末のアメリカとの関係に関するリード文から、外交と貿易の内容を問う問題。基本的な問題と、受験生が解答できない難問からなっていて、基本的な問題を落とさないようにする必要がある。

問題 (G) は、選択肢が微妙で悪問。日本の貿易が黒字に転じたのは 1882 年からで、正答は「2 松方デフレ」とするべきだが、「3 第一次企業勃興」も時期が重なるので微妙。その他、(J) (L) (M) (S) は、受験生として記憶すべき知識の範囲を超えている。(T)は、ハリス来日以前の内容を選択させる問題で、1が「日露和親条約」であることが分かれば解ける問題。歴史事項の内容と時期をきちんと理解しているかを問う問題で、単なる暗記では解けない。

【Ⅲ】

予想配点 10 / 100 点	時間配分の目安 5 / 60 分
出題分野・テーマ 室町文化と桃山文化	
出題形式 記述	
小問別解答と難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (A) (五山版) A (B) (雪舟) A (C) (相国寺) A (D) (狩野永徳) A (E) (洛中洛外図屏風) B	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 【前期】夏期文化史5回 美術史Ⅱ－工芸史・絵画史－ 【後期】10月期4回 芸能史・出版ジャーナリズム史	

●解答のポイント&学習対策等

室町文化と桃山文化の出版・美術関係の基本事項を記述させる問題。(E)「洛中洛外図屏風」のみ「織田信長が上杉謙信に贈ったとされる」という文から答える応用問題だが、その他は、文化史をきちんと学習していれば解ける問題である。

【Ⅳ】

予想配点	28(記述 18+論述 10) / 100 点	時間配分の目安	15 / 60 分
出題分野・テーマ	仏教史を中心とした古代の文化史		
使用されている資料	史料		
出題形式	記述・論述 (80 字)		
小問別解答と難易度	※問題難易度：C難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 問 1 (1)(百濟) A (2)(観勒) A (3)(稻目) A (4)(蘇我馬子) A (5)(紫香楽) A (6)(行基) A 問 2 (飛鳥寺) A 問 3 (持統天皇) B 問 4 (薬師寺) B 問 5 (下記ポイント参照) A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	【前期】夏期文化史 2 回 2 宗教史 Iー仏教史ー		

●解答のポイント&学習対策等

「観勒」による暦の伝来と仏教伝来から、聖武天皇の大仏造立までの仏教史に関する内容。史料から文化史の基本事項を問うている。いずれも、普段は学習しない史料だが、史料(ハ)の問 2 と問 3 を除き解答は容易である。お茶ゼミで学習しない史料に普段から慣れ、史料文中からキーワードを見つけて、自分の知識に結びつける訓練を積んでおくことが必要である。たとえば、史料(ハ)は、「清原宮」→飛鳥浄御原宮、「中宮不念」→天皇の妻の病気から、のちの「持統天皇」が病気になった際に、天武天皇が建立した「薬師寺」であることを考えるという応用問題。重要史料の暗記だけでなく、史料を読み解く力が求められる。問 5 は、大仏造立と同じ年の「墾田永年私財法」であることを見抜いた上で 80 字でまとめる問題だが、基本事項。次の 120 字の論述問題とあわせて、基本的な用語を 100 字程度の文章にまとめる練習をしておけば得点源になる問題である。

【Ⅴ】

予想配点	27(記述 12+論述 15) / 100 点	時間配分の目安	20 / 60 分
出題分野・テーマ	文治政治		
使用されている資料	史料(新井白石『折たく柴の記』)		
出題形式	記述・論述 (120 字)		
小問別解答と難易度	※問題難易度：C難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 問 1 (下記ポイント参照) C 問 2 (海舶互市新例) A 問 3 口(荻原重秀) A・ハ(柳沢吉保) C 問 4 (国王) B 問 5 (朝鮮) A 問 6 (下記ポイント参照) A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	【前期】6 月期 3 回 近世 4 幕藩制社会の安定 【後期】12 月期 1 回 政治史 5 幕藩体制の確立・安定・動揺		

●解答のポイント&学習対策等

新井白石の『折たく柴の記』の史料から、徳川綱吉と新井白石の政策について問う問題。史料対策としては前問と同じ。問 1 は、整序問題だが、海舶互市新例(1715)・正徳金銀(1714)・生類憐れみの令廃止(1709)・大君一件(1711)を並び替えさせるという受験生にとっては無理な問題。問 3 のハ「柳沢吉保」は、文中にヒントがないので解けない問題。問 4 「国王」は、受験生の知識としては「日本国大君」から「日本国王」へというものなので、日本「国王」に「復号」したという問われ方は難しい。文中の「日本国大君」との対比から類推で解くしかない問題。それ以外は完答したい。問 6 新井白石の貿易政策と貨幣政策の論述も内容をきちんと把握して論述の練習をしておけば容易である。物価上昇の抑制を貨幣政策で、金銀の海外流出の防止を貿易政策で使いたい。